

降製加魯茂兒  
 水銀 硝石精 少  
 右箇キ磁器ニ入レ沙火ニ上セ溶化シ尚老レハ瓦斯ラ  
 外尅ス其瓦斯尅サレニ至テ器底仍水銀残ラハ更ニ  
 硝石精少許ヲ加ヘテ溶和シ其渣清トナルニ至テ海塩  
 水銀トホムヲ六倍ノ水ニ溶カシ煮テ攪セテカラ徐々  
 ニ合スレハ洗塗ヲ生ス液塗止ムニ至テ其塗ヲ取り水  
 ラ注キ洗テ乾シ貯フ○水ニ十一ノ兩砂加ヘテ  
 炭那塩製法  
 其レ炭那塩ヲ製セント欲セハ先良性灰白ニメ牛指ノ



洋学文庫  
 文庫8  
 F 22  
 5





少サナル炭那ヲ三十二号ヲ取り細末トナシ又別ニ尋  
常ノ硫酸一多半ニ水百六十号ヲ和シ稀硫酸トナシ之  
ヲ之ヲ攪キ蒸発器<sup>ゴ</sup>ヲ用テ産<sup>ノ</sup>ニ移シ前ノ炭那未<sup>ラ</sup>攷  
シ四分時間攪擾ス且ツ火ヲ備ルト炭<sup>ハ</sup>レ<sup>ン</sup>ヘト  
右ノ百六十度百八十度ニ過ヘカラス○其<sup>ハ</sup>含<sup>ハ</sup>劑<sup>ヲ</sup>傾<sup>ニ</sup>  
張サル続布帛ニ登セ漏滴セシメ又其遺残ノ渣ヲ絞リ  
取り前ノ如ク稀硫酸ニ混和シ漏滴スル<sup>一</sup>ニ次ニ至ル  
然レモ才ニ次ニ於テハ硫酸一多半ヲ用テ才ニ次ニ於テ  
ハ半多半ヲ用テ<sup>一</sup>○三次絞リタル液ヲ皆混和シ三分  
ノニヲ蒸発シ冷定シ緻密ナル毛布ノ袋ニ入レ<sup>一</sup>瀝<sup>シ</sup>テ

透明ナケシム之レニ清製炭酸ボツタト或ハ曹達ノ溶  
解ヲ滴<sup>テ</sup>沉澱物ヲ作ラシム其ボツタトスヲ溶解スルニ  
味ヲ覓テ之ヲ作ル<sup>一</sup>○其<sup>ハ</sup>沉澱物ヲ悉ク取り錫器ニ  
納ル者沸セサル許リニ<sup>一</sup>煖メ温<sup>テ</sup>ルニ<sup>一</sup>乘メ<sup>一</sup>沉澱器ニ移  
ス<sup>一</sup>井ハ冷ルニ從テ復タ<sup>一</sup>沉澱物生スル之ヲ十二時間静  
定シ置其上<sup>一</sup>清透明ニ<sup>一</sup>濃<sup>ニ</sup>赤<sup>ニ</sup>色<sup>ノ</sup>液ヲ去リ<sup>一</sup>傾<sup>ニ</sup>張<sup>タル</sup>  
白布止ニ<sup>一</sup>瀝<sup>紙</sup>ヲ蓋キ其上ニ<sup>一</sup>以<sup>テ</sup>沉澱物ヲ<sup>一</sup>升セ冷水ニテ  
洗滌シ<sup>一</sup>細<sup>ラ</sup>茶<sup>ヲ</sup>土<sup>器</sup>或ハ大塊<sup>ノ</sup>結<sup>晶</sup>土<sup>上</sup>ニ<sup>一</sup>如<sup>キ</sup>於<sup>テ</sup>温<sup>中</sup>  
ニ於テ<sup>一</sup>多<sup>ク</sup>水<sup>分</sup>ヲ<sup>一</sup>脱<sup>ス</sup>ル<sup>一</sup>○其<sup>ハ</sup>既<sup>ニ</sup>乾<sup>キ</sup>タル<sup>一</sup>ヲ<sup>一</sup>取<sup>リ</sup>  
細末ニナシ尋常ノ稀硫酸<sup>六十分</sup>一分<sup>ニ</sup>水<sup>三百</sup>ニ<sup>一</sup>納<sup>ル</sup>手



ヲ止メス攪擾シ今シニソニ子ヲ沉澱物ヨリ分利セシ  
ムルカ爲メニ是ヲ稀ナラサル稀硫酸ヲ一次ニ加フヘ  
シ左ノ方ヲ用フルハ殊ニ之ヲ優レリトス其乾キタル  
粉ニ一廿或ハニ廿ノ稀硫酸ヲ注キ止ムス混動メ  
遂ニ冷定シ試ニラグムース紙ヲ入レラリテ深ク草汁  
様ニシテ其色赤色稀硫酸ノ有無ヲ徴スヘシ○復タ稀硫酸  
ニ廿ヲ注キ飽カシメ復タ稀硫酸ヲ注シテ可殊ニ常  
ノ温度ニ於テシソ子ニ稀硫酸ト色合セサルニ至ニ  
テ再三稀硫酸ヲ注クヘシ是亦ラクムトス紙ヲ以テ徴  
スル者也○シソ子ヲ能溶解スルニ其合劑ヲ煖

ムヘシ然レバ火度ノ烈キヲ禁ス○斯ノ如ク製成スル片  
ハ其液黄色様ニメ透明トナル之ヲ絶粹ナラシムルニ  
ハ其液三分ノニヲ蒸発シ稍色ア分子時トメハ硫酸加  
ル基結晶メ現ハル、此復精製ポツトアス或ハ曹達ノ  
溶液ヲ滴スレハ復沉澱ス此者タル中硫酸加半ハ發  
那ヨリ分解スル加尔基ニメ硫酸ニ飽キ分ハ水中溶  
解シアル者又半ハ沉澱ノ爲メニ用ヒタルポツトアスト  
幾那ノ加尔基ト親和シ不潔状ヲ見ハズ者也○此ノ如  
ク不潔状ヲ現ハスアメリカ及ヒハレーン<sup>ス</sup>差ノポツトア  
ス又尋常ノホトアス然皆ルモノナリ其液ヲ清淨ナラ



シムニハナリルレキマールラ加工沸騰セシムル  
ヲ最良トス

硝砂精製方

硝砂八十支 氷四 百支 石灰 百六十支

右三味徳利ニ入レ極交火ニテ燒干列萬見多ニテ引也

○初メ受テ瓶ヲ水八十支入レ其水際ニ墨ヲ以テ印ヲ

付テ其水ヲ捨テ硝砂精墨ノ印ノ如近トシタル最上ノ

品トナス其後別ノ瓶ヲ以テ又引也○但シ石灰ノ宜シ

キ程精モ亦上品ナリ

字卷酒石

硫酸一多 剥萬亞斯ニ多 水六多

右ポットアスヲ水ニ溶シ是ニ硫酸ヲ加ヘ紙ニテ濾シ火

ニ上セ漸ク芒膜ヲ結フテ度トヌ放冷ニ貯フ

霸王塩

硫黄 硝石 各お介

右坩鍋ニテ一セツク煨化シ水三倍ヲ入火ニテ煎シ芒

膜ヲハル片桶蓋ニ積シサニス則廻リハ付テカタセル

也○又右ノ内結芒中ニ残り水ヲ煎スルテ煎ノ如シ

ベレシボタ

水銀ヲ茶碗様ノ物ニ入レ徐々ニ硝石精ヲ滴シ水銀



コトゴトク溶化スルヲ度トス土器ニ移シ砂火ニ上  
セ水氣ヲ消散スレハ黄赤色ヲ棄シ之ヲリ蓋ヲ覆  
シ密封シ但シ蓋ニ小孔ヲ作テ初ヨリ蓋ノ小孔ヲ紙  
ニテハリ焼ク一ニ時火候口傳アリ砂鍋通紅トナル  
ヲ度トス火ヨリ下スヘシ  
ラービス

銀ヲ細カニ切り茶碗様ノ物ニ入レ硝石指ヲ徐々ニ  
滴ス片ハ銀鉄屑ノ如クナリテ一段凝固シ之ヨリ鉄屑  
ニ移シ入レ少シツ、ニ切り硝子壺ニ貯ス  
サルニルナス

鉄屑ト塩酸ト混和シ酸勢ニテ鉄屑溶解シ逐テ蒸

結芒スルアリ矣即チサルニルナスナリ

コロチスニロチス

銀答ボトアス

右銀答ボトアス別々ニ沸湯ニテ溶シ紙ニテ濾シ兩汁

トノ沸騰スルヲ攪セ合煮ル一口傳吏ヨリ紙ニテ濾シ

ト攪碎ナリ石数々沸湯ニテ洗シ味ナキヲ度トス

綠答精

右ニ味合セ一夜ヲ経テ引ナリ



硝石塩

右硝石ヲ取り搗キ碎キ坩鍋ニ入レ文火ニテ能燉過之  
紙ニテ濾シ其液ヲ文火ニテ煎熬メ乾固潔白ノ塩ト為  
シ貯フ

吐硝石

安質没切未 硝石末 介

右ニ味混和ニ鉄板ヲ烈火ニ上セ通紅トナルニ至リ僅  
々置取テ燒尽ス其後是ヲ沸湯ニテ洗ヒ味無キニ至リ  
文火ニ乾シ次ニ同量ノ硝石ヲ加エ適宜ノ水ヲ以テ煮  
硝石英尽ク溶解スルニ至リテ濾メ滓ヲ去リ水気ヲ蒸

散之結芒ニ貯フ

銅蓉

丹蓉 四匁 硝砂加石灰精十三匁 アルコール 四十

右丹蓉ヲ硝砂加石灰精ニテ溶化スレハ青煙ヲ發シ丈

レヨリ、アルコールヲ加ヘ和メ濾過スレハ銅蓉紙上ニ  
残ルナリ是ヲ硝子ニ入レ置ク時ハ自然凝固スルナリ

海塩精

綠蓉油 九十六匁 塩 酞 四十匁 蒸散

右取樣ハ硝石精ト同シ

金硫黃



右ベイトンデヒークヲキレニテ滷ニ鉄釜ニ入レアン  
チモニート硫黄華ヲ入レ右ノ品トケルニテ煮キヲ止  
メス攪セ夫ヨリ線布ニテ滷シ右ノ溶液ニ硝石精八十  
目結ニテ消石精ヲサシ金硫黄ナリ右ノ汁ニ  
消石精ヲスハ又金硫黄ヲ得ナリ

甘硝石精

三百匁

アルコール百匁

硝石精六十目

三百匁

右アルコールニ硝石精少許充加エ一夜振盪シ置キレ  
トルトニテ蒸餾スルナリ凡百十匁取ル是則甘硝石  
精ナリ

以甘硝石ニ戸屈淫失垂ヲ適量ニ加メ又引取シハ其品  
上等ト謂フヘシ  
但シ火候ハ極弱ヲナスホフニシアルコール等皆  
同也

福弗滿製方

火酒一升徳利ヲ入レトルトニテ七合許ニ蒸餾シ  
又再々蒸餾シ六合許ヲ取ル后六合ニ剥萬重私二百  
匁ヲ加メ一夜浸シ置キ右一夜放浸スルハ瓶底ハ五  
分斗燒酒変メ水トナル其水ヲ去リ上浮シタル銳烈ノ  
火酒ヲ取り又レトルトニテ五合程引右五合ノアル



コイルニツニ分チニ合ユタノアルコト止ニ目形等分  
ノ硫黄精或ハ綠蓉油ヲ合ニ一夜浸シ置翌日又徳利ニ  
入レ、レイトルトニテニ合程引取也則チアリ右ニ合人  
アールニ先キニ分置タルニ合ユタノアルコト止ラ  
又加ハ振盪シ貯フ是則チナリ但シ硫黄精或ハ綠凡油  
ニテモ加フ片ハ 滴ツ、注意メ入ルニシ

破利塩

凝水石ヲ温湯ニ溶化シ布ニテ濾シ鍋ニ入レ火ニテ煎  
シ結芒膜ヲ生スル中火ヨリ下シ清冷ノ如ニ置ヘシ則  
結芒スル也○大陽ニ 干ハ里色ニナル故ニ上面ノ

水ヲ去リフルイ様ノ物ニ拳ケ陰乾スルナリ○凝水石  
ハ即ニカ塩ノ底ニ硬ノタル塩也和蘭ニ硫酸苦土ト云フ

安達刺格加里製方

新製猛烈ノ心イテシテロイクセ多極末石灰ヲ合  
メ火ニ上セ手ヲ停メス攪混シニ物能ク溶化シ水気全  
ク蒸散スルヲ候ニ火ヲ下シ温メタル小白ニ移シ研和  
シ極末トナシ一多宛温メタル小硝子壺ニ内ニ密封シ  
貯フ

○石炭ハ褐色ノ物ヲ良トス黑色ノ物ハ溶化ニ

用法



アンタラコカリニん 甘州末セん

右為一包一日ニ三包ヨリ四包ニ至ル

ベーテンドローク

生石灰 三ろ 剥葛亞斯 三ろ 水 十六ろニ溶和ス

右石灰ヲ火ニ上テ箸コゲルヲ度トス○石灰トポトア

ストヲ合シ鉄壺ニ内レ水ヲ加ヘ火ニ上テ木棍ヲ以テ

チヲ止メス攪セ煮ル一四分時○終リニ少シ絞淨シ其

液ヲ火ニ上テ水氣ヲ蒸散減メ八ろノ量ヲ取ル

別私黥刷胗神至丁發

塩酸鉄 一分 亜的兒 四分

右塩酸鉄ヲ亜的兒ニ溶和シ沉澱ヲ現ハスノ後之ヲ滷

過ニ亜兒固兒八分ヲ加ヘ静定スルノ後小ナル長蠶ニ

内レ日光ニ當テ其色ヲ失フニ至ル

塩酸鉄即升鉄  
塩ナリ

鉄屑 三ろ 海塩精 壹匁

右二十四ろノ水ヲ内レ可キ菲屋尔ノ葉ヲ入レ長頸罎

ヲ取リ砂火中ニ居ヘ鉄粉ヲ入レ之レニ塩酸ヲ注キ其

溶解ヲ候ヒテ更ニ塩酸ニろヲ注キ煮沸セシメ而後硝

酸ヲ徐々ニ滴スル中ハ次第ニ沸騰ス其沸騰全ク休

赫色ヲ見ルニ至ルヲ度トシ止ム○此溶液ヲ硝子器ニ



稜ニ烈火ニテ蒸発シ其液半ヲ減條シ尔後文火ニ上セ  
硝子ノ棒ニテキヲ止メス攪合ス其液一滴ヲ冷体ニ取  
リ膠固トナルヲ度トス火ヨリ下ニ膠固スルニテ攪擾  
シ温ナル硝子壺ニ内レ固封シ貯フ

朱ノ製方  
硫黄半斤 水銀ニ斤

右硫黄ヲ磁釜ニ入レ文火ニ上セ溶解セシメ水銀ヲ投  
シ鉄箸ニテ速ニ攪擾シ火ヨリ下ニ細末トシコップニ入  
レ砂火ニテ八稜様ノ赤色ノ加羅蔑児日様水干ニ製ス  
ルナリ

硝石精製方

硝石 綠荅 各一斤 綠荅火ニ上セ解ク

德利ヲ泥ニテ能ニ塗リ其内ニ右ノニ味ヲ入レ又一ツ  
細キ德利ノ横面ヲ丸ク明ケ之レハ右ノ德利ノ口ヲ入  
レ又一ノ德利ノ横面ヲ破リ圓穴ニテ右ニツ目ノ徳  
利ノ口ヲ入レテ是ヨリ三ツ目ノ德利ヲ取ヘシ右  
ノ継手何モ目塗ヲ能ニスヘシ○右ノ塗タル德利ヲ烈  
火中ニ入燒クヘシ則チ二ツ目ノ器ヨリ三ツ目ノ器ニ  
精流レ滴スルナリ  
煙ヲ出去レハ火ヨリ下スヘシ是渣ト為リタル也



○右ノ渣能ク水干シテ紅カラトナルナリ

卒昆尔製方

水銀九十支 緑蓉二百四十支 塩百支 硝石百支

右先ツ緑丸ヲホウロクニテ水気尽ルニテイリアケ乳  
鉢へウツシ水録ヲ交セ手早ク攪交シ水銀星見へサル  
ニ至ル塩百目能クイリテ乾シ硝石百支ト合シ前ノ品  
ト混和シハント一へ入レ砂火ニテ焼也凡長日ニテ五  
時許焼也則テソッピルナリ

ハニド味ハ備前焼ノ塊鉢ヲ以テ之レニ代用ス○右器  
中ニ葉ヲ入レ之レヲ覆フニ平常ノ皿ヲ以テシ空隙  
ヲラキダニ塩ヲ沃山ニ交セ右ノ空隙ヲ塗塞ス右ニ  
寸ホト空隙ヲ残シ置悪氣蒸発スルヲ見テ悉ク塗塞ス

加羅蔑尔製方

右水銀九十支出来アカリタルソッピルニ又水銀七十支  
ヲ加へ乳鉢ニテ丁寧ニ研和シ水銀星ノ見へサルニ至  
リ炒塩十匙許ヲ加へハントウへ入レ砂火ニテ焼也空  
隙ノ塗塞ハソッピルヨリ嚴重ニスへし○焼クハ大略  
四十一時ニシテ蓋ヲ取り見レハ器ノ内面ニ留着スル  
也坩蓋正中ニ著クハ則跡ヨリ入タル水銀ニメ即卒昆  
尔也

赤汞

水銀三十支 硝石精大畧五十支 倣フニ分量ハ之レニ



ヲノ溶解スル  
度トスル

右溶解シタル后硬ク煮熬シ水氣ヲ去ルヲ度トス蓋ヲ  
覆ヒ燒也○砂火ニテ燒ヘシ火候ハ平等一ヶヲ燒ン  
ト欲セハ大畧四時許

薄荷油製方

薄荷葉粗判者 食塩二合許

右適宜ノ水ニ浸ス一夜翌日蒸餾罐ニ掛ケ尋常ノ蒸  
餾ノ如クスレハ油一如ニ凝芒ノ薄荷精水ノ上面ニ浮  
フ也其時シケールカラスヲ以テ濾シ分テ油ヲ取テ硝子  
器ニ收メ貯フ日経ルニ後テ凝固メ揮発ノ勢ニ猛烈ト

ナルナリ注ニ日塩水ハ尋常水ヨリ重キト十度故ニ蒸  
餾スルト雖モ塩氣ヲ帶ヒス右ニ塩ヲ入ルル  
ハ油蒸ハ一知ニテ火ニテ蒸餾スルニ  
固着スル者ナリ  
ロトドソイクルノ方ハ尋常ノ水ニ入ルルニテ蒸  
唐土十匁 蒸餾醋百匁

右醋中ニ唐土ヲ入ルレハ忽チ沸騰スル也夫レヲ一夜  
放冷シ翌日土鍋ニ入レ文火ニテ徐々煮ツメ結芒膜ノ  
上面ニ集ルヲ度トシ火ヨリ下ニ放冷シ而後テ上面ノ  
醋ヲ捨テ陰乾シ貯フ

酒石酸製方

ホツトア又熱湯右ニ味等分混和之時々振盪メ廣口ノ



器ニ入レ空氣ニ晒ス一八日以上其後濾過シ鉄鍋或ハ  
土鍋ニ入レ蒸釜ニ乾ス一ニ蒸釜ノ終ニ於テ鍋底燒着  
セサル様ニ心ヲ用ユ一ニ右ノ蒸釜ニ由テ出来タル  
塩ハ固封シ貯フ一ニ

コトテヒル製方

ゲフラントアロエシ 四錢 糖一分三厘

プロドブドルセ介

右三味調勻磁器或ハ鉄器ニ入レ火上ニ能境和シ色里  
キニ至ルヲ度トナシ火ヲ下ニ疎末トナシ陶壺ニ入レ  
猛火ニ上ニ須更ニメ之ヲ試ルニ鉄箸ヲ以テシ箸尖ニ

解附也ノ菜呂ニ火ノ移ラ度トシ火ヲ下ニ硝子瓶ニ入  
レ置○以呂空氣ヲ受ケ火ヲ移ス者故一平生瓶口ヨリ  
空氣ノ入サル様ニナス一ニ

ドントルブドル製方

白銀五物一多 揮発硝石精ニ多 アルコイル計ニ  
先硝石精ヲ廣口ノ硝子瓶ニ入レ銀末ト合ニ銀末消尽  
スルキアルコイルヲ注スレハ穀シノ蒸煙ニ但シアル  
コイルノ注入漸々ニメ劇シク沸騰セサルヲ要ス後時  
者沸セシメ水適宜ヲ注シ其時瓶底海線ノ如キ者沈残  
スルヲ紙ニテ濾過シ乾燥スレハ則チドントルナリ



番木鱈元素

百尔列亨尔 加片格ニ依ナル者千八百十八年ニ於テ  
初テ之レヲ發明ス是則番木鱈子ストラスイクナチ子  
及「<sup>ス</sup>」トスフロフルナ  
木ヨリ製スル者也其後印埜亞人ハ毒箭ニ之ヲ用ヒユ  
バヌチウヨク製ス  
此元素ヲ前ノ三種ヨリ製シ蓋シ又後ノ一品ヨリモ製  
ス皆イカフル酸ヲ合併スル者也○其製法種々アリト  
<sup>ル</sup> 全氏<sup>ハ</sup> 邊里<sup>ハ</sup> 谷ノ法ヲ良トス○其法ニ曰ク番木鱈ハ  
細末ヲ取テ數回煎シ其煎液ヲ集合シ舍利別ノ稠ニ至

ルニテ蒸発シテシク過量ノ石灰水ヲ加エ○坎イキル  
ニアルコイルヲ注キ浸出スルニ數回ニ至ル其溶液ハ  
<sup>ル</sup> 知<sup>ル</sup> 者<sup>ハ</sup> 蒸<sup>シ</sup> 過<sup>シ</sup> 蒸<sup>餾</sup> スル<sup>ハ</sup> 其<sup>ハ</sup> 元素アルコイル  
共苗蒸ニ移ル也其物アルコイル中ニ結晶ニ清淨トナ  
ル若清溼トナラサル<sup>ハ</sup> 其結晶其稀硝酸ニ溶シ血炭  
ヲ投シ其液ヲ清潔ナラシメ其上清ヲ取リアムモニア  
ヲ入レ沈澱セシム又其結晶ヲ冷水ニテ洗ヒアルコ  
ルニ溶シ結晶セシム○ストリニ子ニ混和スル取ノ  
フリニ子ヲ除カント欲セハアムニモニアヲ以テ沈澱  
シタル稀冷ノ酒精ヲ注キ浸出セシムニ是其酒精ハ

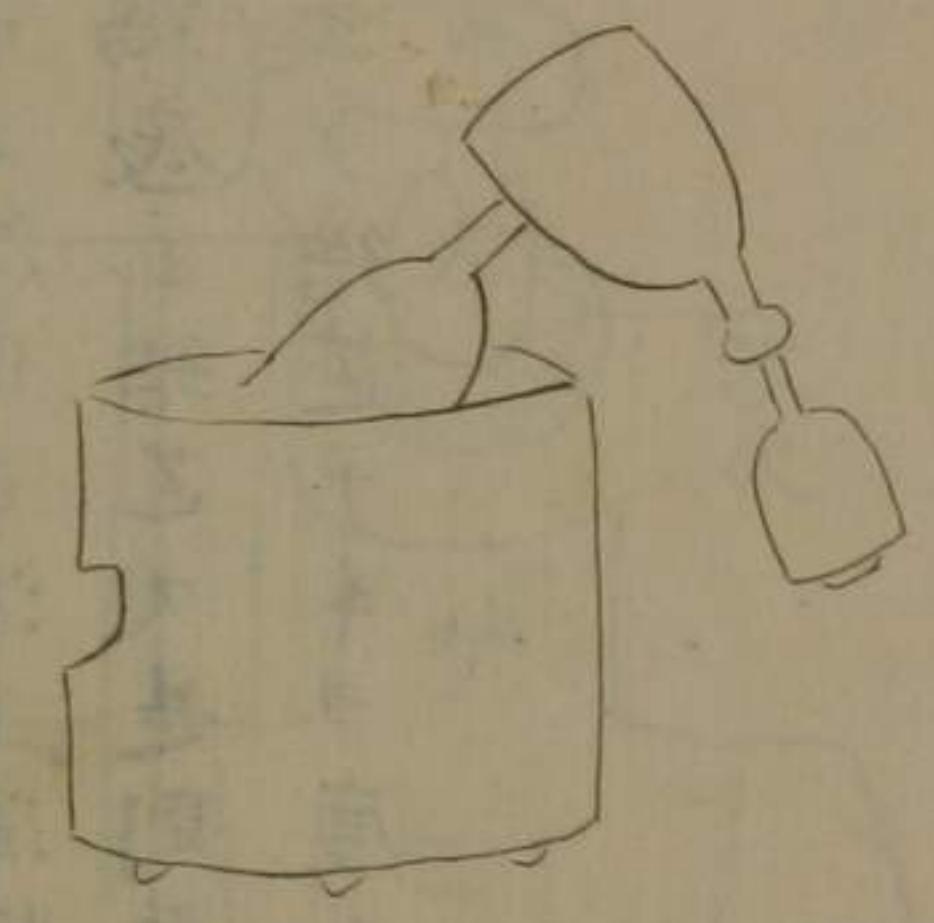


フリシ子ノ溶解スルモノ也。若シスリシ子ニ酸ヲ含シ全ク中性塩トナルハ稀酸ヲ注キ飽シメ徐々ニ蒸発セシム。此中性塩ハ水ニ尤モ溶ケ易ク多クハ結晶ス其味甚ク苦カシ。スリシ子ハ猛烈ノ毒薬ニ人凝量共フルモ死ヲ起ス也。八分ルヲ子フルハ猛大死ス。四分ルヲ用ヒテ人身ニ偉効アリ。殊ニ此劑テタニヌニ効アリ故ニ健康ハ之ニテニ子ノ名ヲ命セシトナリ。

磷酸製方

忽斯剥尔 百二十支 但ニ角石ヲ燒者ナリ  
 亞兒掘兒 五十支

硫酸 三十支  
 尋常炭 適宜口傳



沃扶涅製法

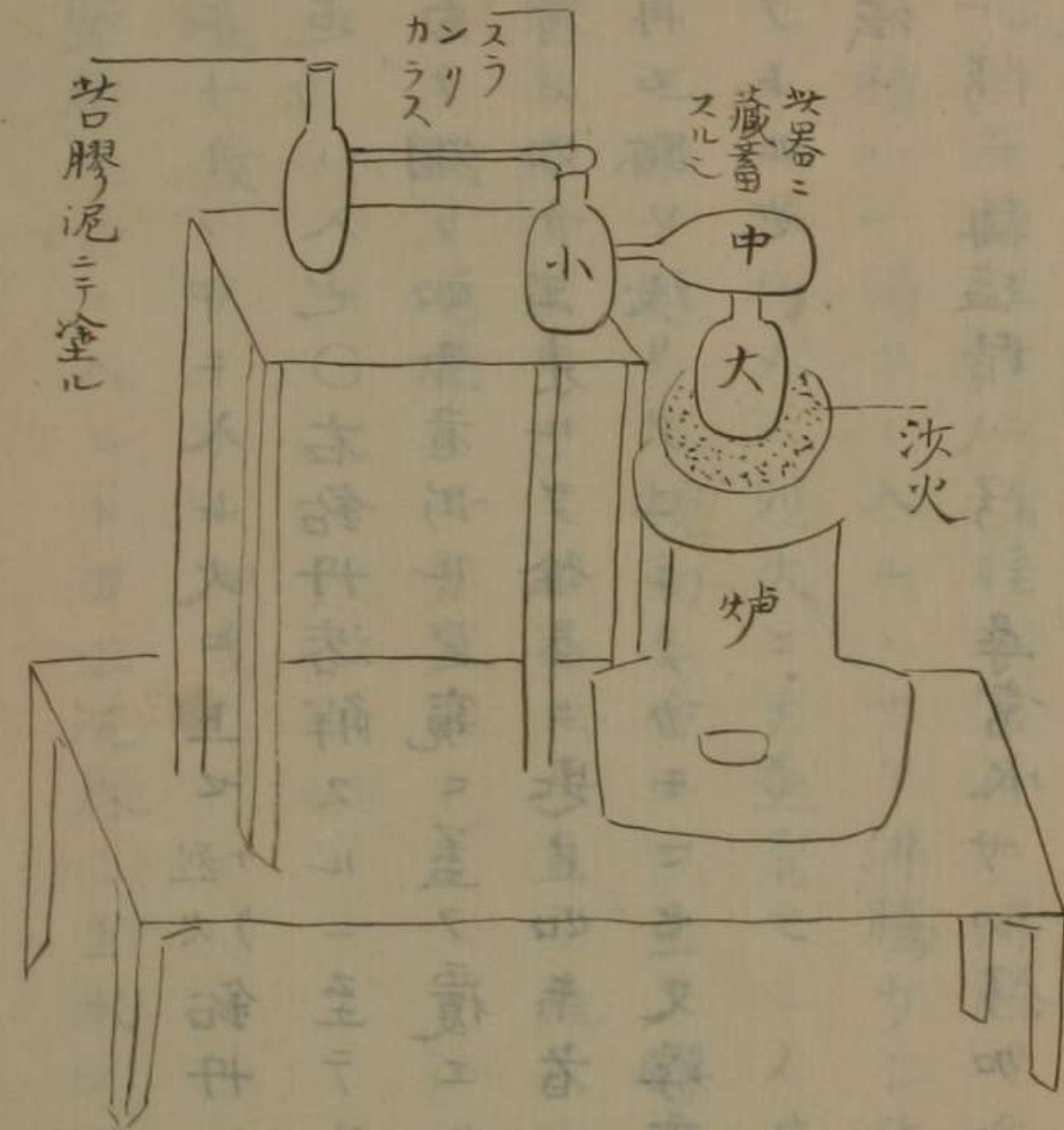
剥馬亞斯 六十支  
 硫酸 四十錢  
 マンクソ 二十支  
 右剥馬亞斯トニクソトニ味研合列馬兒度ニ入炉上



ニ安スルノ後硫酸ヲ滴入シ最初文火ニ上セ漸次ニ猛  
火ニ進ニシムヘシ

剥葛亞斯製法

一味適宜ノ清浄水ニ溶化シ液上薄膜ヲ抹スルヲ度ト  
メ放冷スル片ハ鍋底ニ結芒ス是則曹達ナリ此ノ如ク  
スルヲ幾度ノ限ナリ結芒ナキヲ度トスルノ后煎散ニ  
取ルナリ





亜鉛花製法

一 鉛丹ヲハントノ中ニ入レ火ニ上セ烈火鉛丹五十目ヨリ百目迄ツ入也○右鉛丹溶解スルニ至テ七ニカキマハシ白ク烟ノ如キ者出ルヲ窺ヒ蓋ヲ覆エハ上面ニ素潔白雪ノ如ク出来ルヲ徐々ニ匙ノ如キ者ニテスクヒトリ再ヒ跡ノ残りヲヒニテカキニセ又浮雪ノ様ニ出来ルヲトル也

并鑊塩法

鉄末一匁 海塩精八匁 尋常水廿四匁加へ  
右先ツ海塩精八匁ニ水廿四匁ヲ加へ土器ニ入レ文火

ニ上マ少シ暖ニリタル并鉄末少シツ入レ沸騰止ムヲ窺ヒ又凡硝石精三十二匁程入レ再ヒ沸騰サセシム右此ノ硝石精ハ一滴ツ入ルハナリ沸騰少シ強シ十分ニ溶解シタルヲ初メハ烈火ニテ壺弁セシメ其後文火ニテ煉ル也手ヲ止メ又攪動シ冷ルニ至テ膠固又ルヲ度トシ併シ未冷サル中ニ土器ヨリ直ニ瓶ニ入ル可シ丸小口々ニ成リ湯煉スル方宜シ

鉄丁炭

并鉄塩一匁 アーテル四匁

右鉄塩ヲアーテルニ入レトカニ沉底ニ上水ヲ取り右



エアルコールハ匙ヲ加ヘル也 茶ニテルハホフニシノ

硝石精法

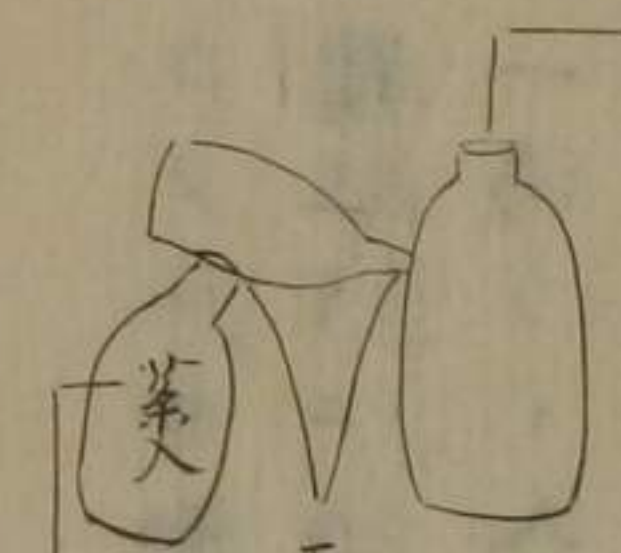
硝石末 緑卷 各ホク緑卷白クナル巨  
土器ニテ炭セ炭法口傳

右ニ味徳利ニ八レ取也 朝立の時ヒカケ夕七の時近焼也

一併徳利ニ三百支ヨリ四百支位迄入也

一火加減ハ初メ弱ク朝立ヨリ昼九の時弱ク追々ツヨ

クスルナリ



硝ロハザツトニテ直シ  
却テカククスハ西シ  
両方共モ土ニテハルナリ  
此位ニテ火ニ埋メ

一 煉ルナリ土ノ方エラカタク子リ具レヲ塩ニ分シ一入レ

一 先ツ茶碗一杯斗ノ緑卷ヲホクロクニ入レ手ハヤク攪

ソ動スレハ水ニナリ又ナリ十分ニイリアカリタル上ニ

一 消石精ノ燒キカスハ籠ニ入水ヲ入レ五六日モ過レハ

上水清浄ナリソレヲ取り紙ニテコシ土鍋ニ入レ煮ツメ

上面ニ一クヲ結ヒタルヲ見テ他ノ器ニ入俄ニ放冷ス

海塩精法

一 塩 百四々 緑色油 三十二 水 九十六

右取り用硝石精ニ同シを庄受ケ徳利ヲ入ニ浸リ置也

赤ベレシヒタ法



一水銀三十匁 硝石精二十錢位

右硝石精ニ水銀三十錢トカスト書キ置ケルニ水銀ト  
クルマケニテ亘シ

右溶解シタル上ニテカタク煮ツル水氣ノ去ルヲ屢トシ  
塊ヲ覆ヒ燒也其レヲ未トシ用ニ汝火ニテ燒ナリ火カ  
ケンハ格別ニ劇シクナクテ亘シ半斗ナラハニ時斗  
ニテ亘シ

辰砂ヨリ水銀ヲ取ル法

極燒タルモノ未

一辰砂八十匁 石灰八十匁 ホーロクノ末 三十匁

右ヨクマセレトトルニテ引也受ケ德利ニ水ヲ入置○

右レトトルニテ引カザレハ土鍋ニ入レ燒也土鍋ノ  
上ニ陶ノ皿ヲ蓋トシ蓋ニ附タルヲ拂ヒトリ又蓋ヲ覆  
ヒ着タルヲ拂ヒトル也蓋ヲ明ケ拂ヒトルサハ假リノ  
フタニテヨシ右蓋ハ紙ヲ潤シ塗り置也○拂ヒ取りタ  
ル水銀ヲ紙ニテ絞リコス也イカ様ニ厚キ紙ニテニ透  
ルナリ

硝砂精

一硝砂八十目 一水四百目 一石灰百六匁

右三呂德利ニ入レ至テ文火ニ燒キレトルトニテ引也  
○初メ受ヲ瓶ニ水八十匁入墨ヲ附ケ印トシ水ヲ捨去



リ置碯碯精墨ノ印ノ如迄取レタルヲ最上ノ品トス其  
后別ノ瓶ヲ以テ又取ル也○此品石灰ノ善ホト精亦上  
品也

カローメル

一水銀 九十目 綠卷 二百四十目 塩 百目 硝石 百目

右四品先ツ綠卷ヲホロクニテ水氣ノ取ル迄炙口傳  
○乳鉢ニ水銀ヲ入レ綠卷ト共ニ手早ク研リニセ星ナ  
キニ至ル可シ尤炙リタル綠卷ノ暖カナル中ニ水銀ヲ  
混シ能クスル也○塩百目ヨクイリ硝石ト交セ前ノニ  
品モ交セ「ハンド」ニ入レ砂火ニテ燒ナリ在長日ニテ

五時位燒也メバリハアラキタ土ニ塩ヲ沃山交セテ其  
レニテメバリイタヌナリ右ニ寸ホトメバリヲノコス  
氣ヲ出シ赤烟リ余程出ルヲ見テメバリスル也○燒ア  
クレハ、ソツヒル也○右ソツヒルニ水銀七十目ヲ加ヘ星ナ  
キニ至レハ○ハ如塩イリテ十枚ニテ加ヘ燒ナリメバリ  
ハ初ヨリ嚴重ニスルナリ○燒アリレハ、ドロシユスナリ  
○ドロシユスヲ乳鉢ニ入レ研磨シテ土鍋ニ水ヲ入碯  
碯五六匙斗リ入レ者テ碯碯少シ溶ケント思フレドロ  
シユスモ入レ者ナリ其レヲ又沈底メ上水ヲ流シ又上水  
ヲ入レ者ナリ再三者テハ上水ヲ流メ其后又尋常水ニ



ニテ洗ヒテ行平様ノ物ニ入レ乾燥スル迄灸ルナリ則  
ナカロメルナリ

緑丸油製

一 緑丸用消石適宜〇右焼ク一凡ソ一晝夜炭ニテハ弱  
之薪ノ方宜シ草味引用硝石精ニ同シ先ツ最初ニ一杯  
斗リ水出ル也是レハ油ニ非ス則精ナリ捨ツルモヨシ  
又貯モヨシ

同精

一 緑丸油 一 麦尋常水六倍〇右混和シテ則チ精ナリ列ニ  
及ハス只貯置クナリ

金硫黄法

一 生石灰三百五斗半斗半口傳  
水 三斗五合合

右三味一同ニ鉄釜ニテ小半時煮ナリ布ニテ濾也再  
濾テ塗渣ナキニ至リ其液ニ右味一斗半斗半ニ細硫黄  
華百二十目〇右ニ呂ヲ入レ鉄釜ニテ溶化スル迄煮也  
凡半日斗煮ナリ溶和スルニ至リ又布ニテ濾シカクナ  
キ程ユメ也其レニ硝石精十滴斗一入レ徐々ニ滴也  
則チ赤色トナルナリ硝石精凡八十目位加入スルナリ  
此処口傳〇右赤色ノ水ヲ布ニテ濾シ水ヲスル也則チ



金硫黄ナリ

メタールサフラン法

一 アンチモニー十六匁 硝石二十四匁 土鍋ニテ焼ナリ

先空鍋ヲ火ニカケ七一杯斗リハ入レ徐々ニ入レ焼ナリ火ハ微火ニテ恒ニ燒アカレハ沸騰セヌ音セサルナリ其レヲ柔研ニテホト為シ

右末ヲ土鍋ニ入レ蒸湯ニテ再ニ洗ナリソレヲ微火ニ

カケ燥シ貯フ

アルカコリチサニ法

一 メタールサフラン八匁 緑凡油十六匁 食塩五二十四

雨水二十ニ匁

右合和ス、コルフニ入微火ニ上セ時々攪セツメルヲ六時ニテ濾紙ニテコス、紙ニ留マリタル渣ヲ取り、ソレニ四十倍ノ蒸湯ヲ加ヘテトカシ静定シ灰色ノ渣ヲトリ  
○ボツトアヌヲ水ニトカシ洗フテ上水ヲ流シ是ヲ洗淨シテテシ貯フ

吐酒石

一 アルカコリチサニ九匁 酒石七匁 水四百八十匁

右合シ土鍋ニ入レ微火ニ上セ煮ルヲ一時斗尽ク溶解スルニ至リ紙ニテコシ其液ヲトリ又煮テ上面膜ヲ生スルニ至テ更ニ微火ニテ次方ニ芒ヲ結ハシメ其芒ヲ



取テ末トシ貯フ

ホツクホトトハルス法

ポツクホトト適宜 燒酒日

右浸置テ九十日程浸シ上水ヲトリ、ランリニテ取ナ  
リ、ランリノ内ニ、ハルスノユル也温ナル中ニ、ランリヲ  
傾ケトル也

ホスホル製方

一角石一升 綠荖油半升

右綠荖油猛烈ノモノニハ微温湯十三倍程ヲ以テ稀釈  
三角石ヲ入レ火上ニ煮ルテ小半時硫酸加ル底底ス

ルヲ見テ火ヨリ下ニ綿布ヲ以テ濾シ其滓ニ温湯ヲ加  
一滌ス一ニ度其液ヲ再ニ紙ニテ濾シ火上ニ上セ水  
氣ヲ蒸散セシム其蒸散ノ間液中ニ滓沉淀スルキハ又  
紙ニテ濾過シ其液ノ量適宜ニ至ルキ、エールヲ硫酸四  
分ノ一ヲ加ヘテバラタナルヲ度トシ、レトトルトニ  
入レ更ニ上火ス

華温滿溶汞散

一水銀四升 硝石精六升 蒸餾水ニ升

右硝石精ニ水ヲ和シ冷如ニ於徐々ニ水銀ヲ加ヘ溶化  
セシメ液中生スル所ノ芒ヲ取蒸餾水ヲ注ヒテ之ヲ洗



ニ紙上ニ、七ロケテ之ヲ乾カニ更ニ五十倍ノ蒸餾水ヲ以テ之ヲ溶カニ静定シテ後チ硝石筋<sup>ビロトハシ</sup>以テ攪セナカラ硝砂加石灰精ヲ一滴ツ、加レハ墨色ノ沉塗ヲ生ス沉塗止ム。ニ至テ其塗ヲ取り紙上ニ展ケテ乾カニ硝子鏝ニ入レ固封シ暗如冷地ニ貯フ

伊阿曹母法 深川石嶋下島立甫宅ニテ傳ス

曹達埜、華列斯ノ母洵ヲ煮テ乾シ則チ伊阿陣曹母ナリ

○伊阿 陣曹母 百目 硫酸九十目 酸化滿俺 八十目

敬度里屋枕私剥莩亜私法

伊阿曹母水素酸ニ清製ホソトアスヲ四ハ重湯ニテ蒸

伊阿曹母水素酸法

伊阿曹母丁幾丁尔ニ硫性素水尾斯ヲ通シサシノ煮レハ硫酸ハ飛散シ則チ伊阿曹母水素酸トナル

伊阿曹母丁幾劑

沃実母 四十八ル 燒酒 三十五度ノ者

敬度里屋枕私剥莩亜私液ノ法

ハイト白ヨタス、ホソトアス 三十六ル 蒸餾水 一ろ

右溶化ス

普洛号乙阿就列去母恨度羅尔葉利法



沃実母一分  
ク井キ一分

右研化ス

徳字又乙阿就列忝母恨度羅尔葉利未法

沃実母二分  
ク井キ一分

右研化ス

マロリンノ方

松炭 櫻炭各十目  
丹 五十目

コウデヒル方

枯器 四分  
饅飩粉 五分  
沙糖 一匁五分

右和混シ研末シ土器ニ入レ文火ニ上セ初メ膠ノ如リ

ニナリ徐々ニ凝固シ后墨土器ニ焼ツクナリ其レヲセ  
ニテ取り再ニ末トシ徳利ニ入レ烈火ニ上セ黄煙出ル  
ヲ見ル徳利中程迄赤クナルヲ窺ヒ徳利ノ裏ニ火箸ヲ  
入レ徳利ヨリ出シ看レハ内ノ葉少シ火バニニ着キ硫  
黄ノ燃ル様ナ気立ナリ惣テ徳利ノ口ヨリ立黄煙止ム  
ヲ度トシ直チニ木ノ栓ヲ口ニ封シ烈火ヲソ口々ニ取  
リ去ル也徳利少シ冷ルヲ窺ヒ硝子瓶ニ葉ヲ移シ空气  
ヲヒカタ様ニ口ヲ封シ置ナリ

ドントロルノ方

硝石精 三匁二分  
銀箔 十枚二分アリ



右一度ニ入レ十分ニ溶解スルヲ窺ヒアルコイル<sup>四</sup>ニ分  
ヲ入レ沸騰サセシム沸騰劇キヲ着テ水ヲ入レ沸騰ヲ  
止ム○一硝石精銀ヲ入レタルハ十分ニ溶解セヌハ  
極文火ニテ炙ル十分溶解スルヲ窺ヒアルコイルヲ一  
度ニ入ル也○アルコイルヲ入レタルハ直チニ沸騰  
劇キハ惡シ分量ウナケレハ沸騰劇シ○アルコイルヲ  
入レ如何様ニメテ沸騰セサル者ハ再ニ硝石精ヲ三四  
滴ツ<sup>一</sup>加工者ナリ必ス沸騰ス若シ三四滴加工テ沸騰  
セサル者ハ沸騰スル迄加ルナリ

水銀製ドントル

水銀 二匁  
硝石精 八匁  
アルコイル 八匁

黒流<sup>ニ</sup>

○杭丸烟州炭 蟬瓜 蜜陀僧或ハ椿葉 各寺分 桔卷水  
中ニ右ノ呂ヲ入テスルタル墨ヲ落シ油ノ付タル棒ノ  
至テ尖リタル先ニテヒロケ又回轉サセシムルナリ  
此ノ方ニテハ出来ヌ別ニ秘法アリ

コウテヒール方

硫黄 硝石 各一分  
木炭 五匁  
桔卷 十二匁

右四味合シ末トシロートルトニ入レ上火

発雷散方



消酸加里 三介 半炭酸加里 二介 硫黄 一介

右三物調勻細末之少許ヲ鑊ニ納レ炭火ニ上セ煤セ

ハ煤化ノ際奮迅決奈メ蕪ス响声霹靂ノ如シ

其奈声ノ酸ハ理ハ消酸加里ヨリ酸素在斯ヲ奈ニ加里ト硫  
黄ヨリ酸化水素ヲ奈ニ埃ニカス和合ノ水ヲ生スルニ  
由ル

西洋附木 松ノ木ヲ楊枝  
如ク作ル

先ツ硫黄華鹽目ニテヲ火ニ上セ溶解シ木尖ニ附帖シ

其后ホスボノル一厚亞刺比亞護謨三厘

右ニ味混和シ水ニテ子リ小筆ノ尖ニテ附帖ス

目次

硫黄亞兒箇兒製法

越烏刺兒度水 同下幾越幾斯

人造硫化鉄製法

痔疾膏 流動鉛醋

屋施蔑兒之方 附用法

悉舊滿煎 附用法 龍腦醋 塩酸金塩

塩酸金 鉄丁炭

塩酸鉄 即升鉄塩



硫黄亜鉛箇児製メーリンキ

一 二年前ハ、モンズ君硫黄亜鉛箇児ノ製法ヲ試テ其  
法一ニテ書載セリ其ニ法アリ一ハ天造ノ硫化安質母  
相ヲ以テ製シ一ハ人造ノ硫化鉄ヲ以テス余屢々之ヲ  
試験スルニ第一方ハ一方ニ優レリ即チ人造硫化鉄  
七分乾炭二分混メ細末トナシ硝子ノ列莠尔ヲ入レ  
燒酒火<sup>ウエインゲリス</sup>トウングニ上セ通红ナラシム  
レハ無色ニメ烈臭ノ液兼溜壘ニ滴出ス是即チ硫黄亜  
鉛箇児ナリ又一方アリ鉄屑細末ナル者三分炭四分硫  
黄末六分混和シ上法ノ如ク製シ通红ナルニ至レハ硫

黄ト炭ト交和メ硫黄亜鉛箇児兼溜壘ニ滴入ス但ニ燒  
ニ黄色ヲ帯フ是硫黄ノ多量ナルニ由ルヲ疑ナシ  
又硫化剥莠尔三分炭一分ヲ以テ製スレハ硫黄亜鉛  
箇児ヲ得ト虽モ尾斯トナル者多シ是ハシモンズ氏モ  
書載スル所ナリ

人造硫化鉄 和蘭方

鉄屑一分精製硫黄半分下寧ニ混和シ坩堝ニ入レ密閉  
シ火ニ止セ暫ク通红ナラシメ自然ヲ待テ之ヲ冷シ硝  
子壘ニ入レ固封シ貯フ

痔疾膏 メーリンキ



綿片霜 半斤 新鮮酪 二斤 鉛糖末 十斤

右精密ニ調和軟膏トナシ常法ノ如ク用ユ

屋施茂兒 ベイヤ

拂郎斯酒醋 十一斤 精製砂糖 十四斤

右文火ニ上セ密ノ稠トナス

龍腦醋 ベレイラー

竜腦半斤 醋酸 六斤半 或六斤

右先竜腦ヲ取り再溜焼酒少許ヲ加テ研摩シ末トナシ之ヲ醋酸ニ溶和シ此劑烈臭アリ其氣ヲ強烈ノ衝動劑トシ卒倒症ニ嗅入セシム

○塩酸金塩 ベレイラー 板説

塩酸金 出ツニ八十五分 食塩 十六分

右蒸餾水少量ニ溶シ微火ニ上セテ蒸散シ上面膜ヲ生スルニ至テ放冷結晶セシム○内服ニハ二十分凡ノ一ヨリ十分凡ノ一ヲ漿粉或ハ石松ヲ以テ丸トナシ用ユ  
○擦劑ニハ伊里斯弗魯連底那 或ハ石松ニ倍ヲ和シ舌上若リハ齒齦ニ用ユ○塩酸金塩一凡家猪脂三十六凡ヲ和シ軟膏ヲ造リエニテルマチニ法ニ用ユ

塩酸金 全上

金 一分 霸王塩 即硝塩酸 三分



右微熱ヲ以テ溶和シ蒸発シ己ニソロリニ蒸発シ来シ  
ハ之ヲ放冷結晶セシメ橙赤色ノ細芒針ニメ臭気ナリ  
其味甚ク收斂メ且ツ悪ム可シ

ベスチニツセヒ神至下哉

塩酸鉄一分 硫黄亞的兒而チ亞的兒之四分

右溶化シ沉澱ノ后淨過シアルコトハ八分ヲ加ヘ靜定

メ后長キ小硝壺ニ入レ固封シ太陽ニ曝シ色ヲ失フニ

至ルニ

塩酸鉄

鉄屑一多

先ニオールル器ノ右頸長ク腹ノ水二十四多ヲ容ルヘ

キ者ヲ沙火上ニオキ之ニ鉄屑ヲ入レ塩酸六多ヲ加ヘ

溶解ニ更ニ塩酸ニ多ヲ加ヘ煮テ沸騰セシメ又夕硝酸

ヲ滴ス其量ハ沸騰止ニ其液赤褐色トナルヲ度トス之

ヲ陶器若クハ硝子器ニテ蒸散ス但し初メハ烈火ヲ以

テ其半ヲ減シ其后漫火ニメ急ラズ攪和蒸散メ試ニ冷

如ニ滴スレハ凝結スルニ至リ乃チ火ヨリ下ニ凝結ス

ルニテ攪和シ未タ全ク冷サル前之ヲ温メタル硝子壺

ニ入レ固封ス

藪烏刺見度水



護烏刺兒度越幾斯六支 並溜水ニセ 燒酒ニ度者

右溶化ス

護烏刺兒度ニキス

酢酸ニ化シテ

鉛醋適宜製法次ニ出ツアセインシニルロート

右ハ子器或ハ陶器ニテ蒸散シ油莖若クハ稀キ舍利別

ノ稠トナス或ハ水一ヲ容ル量器ニ之ヲ盛ルハ二

ヲトニ之ヲ容ルニ至ルニ

鉛醋酢酸ニ化シテ液註

金蜜陀一分酒醋四分

右狭口ノ硝子壺ニ入レ時々振蕩メ十二時間浸出ニ而

メ之ヲ煮ル一時半若クハ二時或ハ青紙ヲ添サレニ

至ルヲ度トシ冷テ后紙ニテ濾シ硝子壺ニ貯フヘシ

悉馬滿煎 強方〇セリウス梅毒扁核註

薩尔沙根 十二多無則代山飯末

右水二十四セヲ以テ煎スル一八分時ニメ明器糖一ヲ

一ヲ半甘黍半ヲ銀末一之ヲ布囊ニ盛リテ共ニ煎出ニ

終ニ旗那葉三ヲ甘草一ヲ半過泥子苗香子各半ヲ加

一ハ瀘過メ十六セヲ取り八壺トナシテ

同 緩方

強方之餘滓 薩尔沙根 六ヲ



右水二十四枚ヲ以テ煎シ終リニ狗椽皮末桂支末益智  
末各三枚甘草六枚ヲ加ヘ沸メ十六枚ヲ取り壺ニ入レ  
貯フ

同用法

早朝甘草下丸十六粒若ハ甘草二三片ヲ砂糖ニ和シ用  
ヒ翌日ヨリ四日毎朝強方一壺ヲ温服シ午后緩方一壺  
ヲ冷服シ第六日更ニ下丸ヲ用ヒ四日間煎劑ヲ服ス  
ルノ前ノ如シ但シ毎日夕タルラハスフレ女羊肉ニスレマシメ餅ニトマシ  
シ下劑ノ日ハ肉美汁一椀ツ三回用ヒ施療中ハ患者  
尊中ニ在テ並發氣ヲ催進シ尔后モ暫ク病室ヲ出デス

メ尚オ弟本莖煎或ハ薩尔沙根煎ヲ服シ擾券ヲ謹ム  
シ○全癒セサル片ハ再ヒ同方ヲ用エルニ宜シ○患者  
強壯ナル者ハ才十一日又夕下丸ヲ用ヒ○温湯ヲ以テ  
急ラス潰瘍ヲ洗濯シ乾綿繖線若クハ之ニ單方軟膏ヲ  
貼シオクヘシ○服薬中ハ大抵稀キ大便立行若クハ六  
七行ニメ適度ニ發汗ス余カ実験ニ於テハ未タ服薬ヲ  
廢スベキカ如キ陰症ヲ起ス者ヲ見ス○患者甚タ薄弱  
ナルカ或ハ皮病甚ク蔓延セル者ハ唯毎日本煎一壺ヲ  
服サシメ法ノ如ク食養ヲ謹ミ久ク服薬セシムルヲ佳  
トス○間々下丸ヲ吐出スル者アリ然ル片ハ數包ヲ分



テ再之ヲ用エヘシ○服業中悪心嘔吐ヲ起ス者ハ女  
許ツ、トフルハ自ラ鎮静ス○緩方ヲ服メ後劇キ服痛  
及ニ輕易ノ流涎ヲ免スル者アリ

明蓉糖製法

玫瑰花ニ支

沸湯四升

右ヲ十二支ニ泡出シ左ノ葉ヲ加フ

明蓉ニ支

鷄子白ニ箇

右三味混和土器ニ入レ煮テ泡沫ヲ去リ水気尽ニ至ル

ヲ度トナス

榎植核粘液ケレウエーロツテスレ

榎植核ニ支

右水ハ多ヲ加ヘ徐クニ煎メ粘液ノ稠トナシ濾過シ貯  
フ○此劑膏テ内服セス乳頭唇吻ノ破裂結膜ノ嫩衝或  
ハ痔疾有痛者等ニ外用スヘシ



